

国
語注
意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。

2. 別紙の解答用紙は、マークシート解答用紙と記述解答用紙とに分かれています。指定された解答欄をまちがえないように注意してください。マークシート解答欄の余白は使用しないでください。

3. マークシート解答用紙は直接コンピューターにかけますので、折りまげたり、よごしたりしないでください。また枠で囲まれた部分以外には記入しないでください。

4. マークシート解答用紙にマークするときは該当する○にはつきりとマークしてください。
マークのしかた (良い例) ●

(悪い例) ○ ⊗ ⊙ ⊖

(万年筆、ボールペンなどは使用してはいけません)

5. マークシート解答用紙に誤ってマークした場合には、消しゴムで跡が残らないようにしていねいに消し、消しかすをきれいに払ってください。

6. 試験開始後、マークシート解答用紙には氏名、受験番号を記入し、さらにその番号をマークしてください。なお、受験番号を記入するときにはマークシート解答用紙の〔受験番号記入上の注意〕をよく読んで、まちがいのないようにしてください。

記述解答用紙には、氏名、受験番号を記入してください。

7. 試験問題はこの冊子の十ページに記載されています。

問題冊子の余白部分は、メモとして利用して構いません。

8. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I 次の文章を読み、後の問に答えよ。

黒という色には独特の魅力がある。これは別に最近の流行ではない。白と黒とは色ではないように思われるときもあるが、赤、黄、青などさまざまな色の中にあるとき、黒は知的な感じさえして、それを見ることによって気持ちが安心したり、忘れていた奥ゆかしさを想い出すこともある。

しかし黒ほど派手な色はないこともある。こんなことを考えると際限がないが、黒い雀^{すずめ}はそういう派手な雀ではない。まったく黒けになってしまった雀である。

安保条約反対で朝の電車がとまったところだから六月中旬である。学校は三時間目からはじまるというので朝食をすませた子供が自分の屋根裏部屋で何かやっていた。その子が大変だと言いながら体をすばめて階段をかけ下りてきた。

雀が煙突に落ちたらしいという。私はそれは大変だと思った。本屋さんがきていろいろ相談している最中だったが、すこし待ってもらうことにした。私の家の煙突は、家の中央にあり、途中に、ルンペンストープからのブリキの煙突をつっこむ穴が下の部屋にも屋根裏部屋にもある。ひょっとしたらそこから出てくるかもしれないと思って両方の蓋^{ふた}をあけ、一番下のすすを掻き出す四角の蓋もあけた。

雨が降っていた。雀も雨に濡^ぬれるのがいやで、屋根につき出た煙突の笠^{かさ}の中にかくれようとして、それで落ちたのではないかと思う。だが雀は 2 A どの口からも出てこなかった。私はそれでも雀のことを気にしながら、本屋さんとの話を進めていると、すすを掻き出す口からいやに小さな顔をちらつとのぞかせた。

私はそのとたんに吹き出した。雀は真っ黒になっていた。その顔つきは、いたずらっ子のようにだった。雨に濡れた体を、煙突の中でばたつかせながら一番下まで落ちて来たのだから、すすはこっそりついた。その雀はおどおどした容子はむしろなくて、

3 A をつぶしたという姿だった。そのきょんとした眼を見たとき、まっくらな煙突の中ではつぶっていたろうかと思ふなことを考えた。やっと見つけた明るさの中には、自分の仲間はいなくて、人間が自分を見守^{もも}って狼狽^{ろうばい}している。これはいった

いどういうことになったのか。あの小さい丸い頭ではちよつと考えきれなかったにちがいない。

床板の上を歩いてみる気がやつと出てきた雀を、私はそこから一番近い台所の戸口へ案内するのに 3 B を折った。先を歩いてもついてこないし、後から追うと方向ちがいへ行ってしまう。

4

と思ったが、飯粒をひとかたまり戸口に投げてみた。すると雀は勇ましくあぐりとかぶりついた。人間ならこれほど大きなショックを受けたあとなどは、食欲はそうすぐには出てくるものではないと思ったが、雀は嘴 ^{くちばし} いっぱいにくわえ、それが喉につかえて困っている。背中を叩いてやるわけにも行かない。

やつと外へ出て、こつちもやれやれと思ったが、雀はなかなか飛んで行こうとはしないで、翼や尾羽をひろげている。どうみてもきたない雀である。なるほどこれではみつともなくて仲間のところへは戻れまいと思った。私は犬や猫に話しかける癖がうっかり出て、水浴びするなら水を汲んでやろうかと言った。

コンクリートのたたきの上に黒い雫 ^{しずく} が落ち、ついに全身をふるわせたときには黒い飛沫 ^{しぶき} だった。だがこの雀はきつと屋根へ戻って行ったと思う。それがまた翌日もその翌日も雀は同じようにまっ黒になって落ちてきた。中にはとちゅうの、屋根裏部屋にあって口から飛び出して留守中の子供の寢床で遊んでいるのもいた。日に三、四羽落ちることもあり、その度に三カ所の穴の蓋をあけるのがひと仕事だった。

⁵ 私はいまに考えた。雀は落ちるのがおもしろくなつたのではないか。落ちた奴が仲間に、落ちてみる、スリルがあるぞと言っているのではないかと思った。

あるときは、蓋を中からトントンと叩 ^{たた} いて、いかにも開けるといふふうで、開けると二羽ならんで出てきたのには少々あきれた。その二羽は落ちついているというよりも相当 6、玄関の方から出ようとする。そして、まるで私の作り話のようだが、思い出したように、食卓の方へちよつと戻って、食べこぼしのパン屑 ^{くず} なんかを食べ、それからふたたび玄関の方へくる。

じつと見ているといくらでもすき勝手のことをして行くようだった。玄関のわきの私の仕事部屋を 2 B のぞいて行くのもあった。積みあげた本の上を渡り、ヘリにとまって、本の背文字をのぞいてみるような振りをするからいやになってしまう。

それが鳥類図鑑かなにかなら似合いなのだが、女性講座の中の「金銭について」であると、私はなんと⁷ということもなく雀にばかにされたような気持になる。

雀たちにすっかり家の中を探検されたが、出てくる雀を見るともうあまり黒くはない。私は屋根にらんんでいる雀を見ながら、君たちの考案した遊戯のおかげで、ありがたいことにはすっかり

8

ができたぞと言ってやった。

（串田孫一「黒い雀」）

問一 傍線部1「体をすぼめて階段をかけ下りてきた」とあるが、それは狭い階段をどのような様子でかけ下りてきたことを表したのか。もつとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ（解答欄はマークシート a）。

- ① 大慌てで
- ② うなだれて
- ③ あきれはてて
- ④ いらだって
- ⑤ 得意げに

問二 空欄2A、2Bに入る語の組み合わせとしてもつとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ（解答欄はマークシート b）。

- | | | | | |
|---|-----|-------|-----|------|
| ① | 2 A | いっこうに | 2 B | わざわざ |
| ② | 2 A | いっこうに | 2 B | うっかり |
| ③ | 2 A | いっせいに | 2 B | わざわざ |
| ④ | 2 A | いっせいに | 2 B | ちらちら |
| ⑤ | 2 A | かたくなに | 2 B | うっかり |

問三 空欄 3 A、3 Bに入る語の組み合わせとしてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート)。
c。

- | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|
| ① | 3 A | 声 | 3 B | 骨 |
| ② | 3 A | 眼 | 3 B | 腰 |
| ③ | 3 A | 眼 | 3 B | 膝 |
| ④ | 3 A | 胆 | 3 B | 骨 |
| ⑤ | 3 A | 胆 | 3 B | 膝 |

問四 空欄 4に入るもっとも適切な言葉を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート)。
d。

- ① たぶん怖がるだろう
- ② よもや好物ではないだろう
- ③ もしや満腹かもしれない
- ④ きっと食べづらいだろう
- ⑤ まさか食べないだろう

問五 傍線部 5のように筆者が考えるに至った経緯としてふさわしくないものを次からひとつ選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート)。
e。

- ① 翌日以降も雀はくり返し落ちて来た。
- ② 翌日以降の雀の落下にはほかに合理的な理由が思いつかない。
- ③ 落ちてきた雀は翌日もその翌日もまっ黒だった。
- ④ 複数羽と一緒に落ちてくることもあった。
- ⑤ 落ちてくる雀の様子に次第に余裕が出てきたように感じられた。

問六 空欄6に入るもつとも適切な言葉を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート f)。

- ① 頼りなくて ② 慌てていて ③ 図々しくて ④ 礼儀正しくて ⑤ 慎重で

問七 傍線部7「私はなんともなく雀にばかにされたような気持になる」と筆者が感じる理由を、解答欄に合わせて記述

解答用紙I7に二十字以上、三十字以内で答えよ(句読点も一字と数える)。

問八 空欄8に入るもつとも適切な語を次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート g)。

- ① 気分転換 ② 煙突掃除 ③ 動物愛護 ④ 残飯整理 ⑤ 自然観察

Ⅱ A 次の1～3の（ ）内のカタカナを漢字に直し、4～6の（ ）内の漢字の読みをひらがなで記せ（解答欄は記述解答用紙Ⅱ1～6）。

- 1 あの時、僕たちは人生の（キロ）に立っていた。
- 2 幼稚園に通う娘は好奇心が（オウセイ）で、どんなものでも触ろうとするので目が離せない。
- 3 原稿の（コウセイ）をなんどもおこなう。
- 4 報告書は都市計画の概要を（素描）している。
- 5 彼は若くして（盤石）の地位を築いた。
- 6 ネット社会では、デマが（流布）するのも速い。

Ⅱ B 次の7～10の（ ）内のカタカナと同じ漢字が当てはまるものを①～⑤からひとつ選び、その数字をマークせよ（解答欄はマークシート h ～ k ）。

- 7 会議の要（シ）をまとめて提出するように指示があった。
① 宗〔シ〕変え ② 〔シ〕索 ③ 〔シ〕望大学 ④ 〔シ〕会者 ⑤ 他国の〔シ〕者が来る
- 8 武器を捨てて投（コウ）する。
① 〔コウ〕式発表 ② 〔コウ〕釈師 ③ 気〔コウ〕変動 ④ 〔コウ〕雪量 ⑤ 鈍〔コウ〕電車
- 9 修（ジ）学とは聞き手を説得する話術に関する学問である。
① 化け物退〔ジ〕 ② 〔ジ〕職する ③ 誇〔ジ〕する ④ 〔ジ〕件簿 ⑤ 〔ジ〕已申告
- 10 世の風（チョウ）に流されないでいることはむずかしい。
① 〔チョウ〕度品 ② 特〔チョウ〕 ③ 満〔チョウ〕時刻 ④ 視〔チョウ〕覚室 ⑤ 〔チョウ〕役割

Ⅲ 次の文章は、『栄花物語』のうち村上帝について語られた箇所と、その解説文である。読んで、後の問に答えよ。

かくて、今の上の御心ばへあらまほしく、あるべきかぎりおはしましけり。¹醍醐の聖帝世にめでたくおはしましけるに、また

この帝、堯^{ぎョウ}の子の堯ならむやうに、おほかたの御心ばへの雄々しう気高くかしこうおはしますものから、御

2

もかぎり

なし。和歌の方にもいみじうしましたまへり。よろづに情あり、物の栄えおはしまし、そこらの女御、御息所参り集りたまへ

るを、時³あるも時なきも、御心ざしのほどこよなけれど、いささか恥がましげに、いとほしげにもてなしなどもせさせたまは

ず、なのめに情ありて、めでたう思しめしわたして、なだらかに掎^{おき}てさせたまへれば、この女御、御息所たちの御仲間いとめや

すく、便⁴なきこと聞えず、くせぐせしからずなどして、御子生れたまへるは、さる方に重々しくもてなさせたまひ、さらぬはさ

べう、御物忌などにて、つれづれに思さるる日などは、御前に召し出でて、碁、双六うたせ、偏^{注三}をつがせ、いし^{注四}などりをせさせ

て御覧じなどまでぞおはしましければ、皆かたみに情かはし、をかしうなんおはしあひける。かく帝の御心のめでたければ、吹

く風も枝を鳴らさずなどあればにや、春の花も匂ひのどけく、秋の紅葉も枝にとどまり、いと心のどかなる御有様なり。

（巻第二「月の宴」）

物語は村上帝がいかにすばらしい天皇であるかを語りだす。村上帝は、醍醐の聖帝の息子であるから、「堯の子の堯ならむやうに」というので、同じく村上帝も「聖帝」であるとされている。では、その村上帝の聖帝ぶりとはどこにあらわれているのか。

人柄の雄々しく気高く賢い上に、学問のほうも究め、和歌にもたけている。学問といった男性ジェンダーに支配された漢詩文の才とならんで、和歌という女性ジェンダーの下にあるものもあると讃えるところから、後宮の話題へと流れていく。なにごとに情緒があつて、華やかであつて、後宮に集う多くの女御、御息所たちの仲間もよい。けつきよくのところ、村上帝のすばらしさ、聖帝ぶりは、複数の妻たちをうまく扱うことに収斂^{しゅうれん}していくのである。

ウラの権力構造を支える妻たちとの関係は帝にとって政治そのものであることは言うまでもない。女御、御息所たちの扱いについては、まず子を生んだ者を重々しく扱っているということ、そして子を生んでいない女たちについては、つれづれ退屈な私的な時間には召してそばにおく、といった区別をおこなうことが肝要である。そうした

7

にに応じて女たちを遇すること

こそが、「いと心のどかなる御有様なり」といった後宮運営の結語をもたらすのである。

(木村朗子『女たちの平安宮廷』より)

注一 堯げう 古代中国の君主。聖王とされた。

注二 女御にようご、御息所みやすどころ 天皇の后たちのこと。

注三 偏をつがせ 漢字を使った遊びの一種。

注四 いしなどり 小石を使った遊びの一種。

問一 傍線部1「あるべきかぎりおはしましけり」のここでの意味として、もっとも適切なものを次から選び、その数字をマーク

せよ(解答欄はマークシート 1)。

- ① できるだけ周りの者に優しくなさった
- ② この世の最高の徳を備えていらつしやった
- ③ 現世にあるものは何でもお持ちでいらつしやった
- ④ この上なく美しいお姿でいらつしやった
- ⑤ 醍醐帝の限界をお越えになった

問二 空欄2に入る語としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート m)。

- ① 威
- ② 学
- ③ 能
- ④ 知
- ⑤ 才

問三 傍線部3「時あるも時なきも」の意味として、もっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート)。

- ① 帝が健康な時も不調な時も
- ② 時勢になかった趣味もそうでない趣味も
- ③ 醍醐帝の時も村上帝の時も
- ④ 寵愛を受けている人もそうでない人も
- ⑤ 世の中が安定している時も不穏な時も

問四 傍線部4「便なきこと聞えず」の意味として、もっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート)。

- ① 不都合な噂もたたず
- ② かわいそうな話は帝には伝わらず
- ③ けしからん出来事は帝に申し上げず
- ④ 女御の陰口は誰も言わず
- ⑤ 帝に苦情を言う者もおらず

問五 以下の文は、傍線部5「さらぬはさべう」の現代語訳である。「さらぬ」の内容が具体的になるよう、空欄にどのような語句を入れるべきかを考え、解答欄に合わせて記述解答用紙のⅢ5に十字以内で書け。

方はそれなりに

問六 傍線部6「ウラの権力構造を支える妻たちとの関係は帝にとって政治そのものである」とあるが、それはなぜか。村上帝が

平安時代中期の天皇であることを考慮し、理由としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄は

マークシート p)。

① 当時は、どの后との間に子を儲けて次代の天皇にするかが、最重要事項であったから。

② 当時は、天皇ではなく、后とその父が実際の政治を動かすシステムであったから。

③ 当時は、どの后を最も寵愛するかということでしか、天皇の権力を示すことができなかったから。

④ 当時は、后たちの寵愛をめぐる争いを鎮められた天皇だけが、有力貴族たちの信頼を得られたから。

⑤ 当時は、すべての后を平等に扱うことが、天皇に求められていたから。

問七 空欄7に入る語としてもっとも適切なものを次から選び、その数字をマークせよ(解答欄はマークシート q)。

① 経験

② 愛情

③ 序列

④ 身分

⑤ 気分